

アジアの“現在”に触れた旅



マレーシア独立広場

◆青少年海外視察研修◆

光町の未来を担う青少年に、豊かな人格と広い国際感覚を備えてもらうため実施してきた青少年海外視察研修も、今年で10回を数え、112名の青少年が実際に海外の生活を体験してきました。

今年は8月21日から25日までの5日間、マレーシア・シンガポールの2ヶ国を訪れました。

マレーシア日本人学校では、日本からの訪問を心よく受け入れてくれ、現地で日本人学生が異文化、言葉の壁の中で勉学に励んでいる様子をうかがいました。シンガポールではボランティア団体と共に老人ホームでのボランティア体験を通して、現地の青少年と交流を深めました。

この研修を通して、自然の美しさ、生活習慣の違いなど数々の体験や感動を胸に帰国しました。



鈴木 恵子

(五ノ神・高校生)

18才にして初めての海外。私はこの研修で、普段気づかなかった何気ないことに気づきました。一つは、飛行機はとて

もすごいということ。あたり前ですがあの大きな鉄の塊の中には、そこだけで世界が濃縮された

ように、各国のいろいろな人がいる。いろいろな目的で乗っていて国際的な空間です。二つ目は時間の大切さです。日本との時差はたったの1時間ですが、夏の終わりというのもあり、増えたり減ったりする1時間は、たいへん貴重でした。

三つ目は、これはかなり真面目に思いましたが、自分が知らない所でいろいろな人たちが、いろいろな生き方をしているということです。それを最初に感じた



齊藤 聖

(橋場・大学生)

普段の生活の中でASEANのニュースを耳にしない日はないでしょう。日本と深いつながりを持ち、発展し続ける国々。なかでも、シンガポールとマレーシアはメキメキと頭角を現わしています。

いずれ日本を脅かすであろう潜在的な力を秘めていると思われ。私は、そんな国々を肌で感じたい。この研修に参加しました。最初の訪問地、クアラル

ンプールでは、多民族の共生する社会をつぶさに見ても、もちろん摩擦はあるでしょうが、それすら発展のエネルギーにしてしまい、そんな印象を受けました。また、日本人学校も訪問しました。あいにく夏休み中という事で先生方とお話をしました。日本以上かと思われる程

の受験競争の激しさに驚かされました。翌日、シンガポールに移動。高層ビルが建ち並び、緑濃く、ゴミ一つ落ちていない道路を見て、観光立国としての自覚がそうさせているのではと感心しました。また、当地の老人ホームを訪れ、そこでボランティアをしていて若者と交流でき、大変有意義なひとときが過ごせました。滞在中、ボール遊びで見せてくれたお年寄りの笑顔は、万国共通で優しく、思わずこちら

の顔もほころんでしまいました。バスと列車で移動する旅でしたが、現地の方々と交流する機会が少なかつた事が非常に残念です。研修を終え、国際化する社会に対応する人材を育成するのに、海外派遣は大変意義があり、これからも継続してもらいたいと思います。今後は、人々の生活にじかに触れるホームステイ等もプログラムに加え、更なる内容の充実を願っています。